

| 学 校 教 育 相 談 | | 担当教員：五 浦 哲 也 | 2 単 位 |
|-----------------------|---|--------------|-------|
| 設 題 | <p>設問：テキスト『教育相談の理論と方法』を参考に、以下の①～⑥の課題から1つを選択して記述してください。※<u>自らの考えも含めて</u>記述してください。(規定字数1800字以上)</p> <p>①第1章(学校における教育相談の意義と課題)を踏まえ、第9章(いじめ問題への対応)に関して、教員としていじめの未然防止、早期発見、早期対応などいじめ問題の対応に向け、どのように取り組んでいきますか。</p> <p>②第2章(教育相談に関わる心理学の基礎的な理論)と第4章(カウンセリングの基本技法)において自らが最も着目している教育相談に関わる心理学の基礎的な理論と理由、そして、その理論を実践で活用する上であなたが身に付けている基本技法とこれから身に付けていきたい基本技法について理由を含め記述してください。</p> <p>③第6章(幼児期の発達課題と教育相談)、第7章(児童期の発達課題と教育相談)、第8章(思春期・青年期の発達課題と教育相談)を踏まえ、<u>幼児期から思春期・青年期の発達課題を理解していることが思春期・青年期における教育相談を行う場合、どのように役立てていくことができるか</u>について記述してください。</p> <p>④第10章(不登校(園)と教育相談)、第11章(保護者支援と教育相談)を踏まえ、<u>教員として不登校の生徒や保護者にどのような教育相談活動を実践していきたいと考えるか</u>について記述してください。</p> <p>⑤第13章(学校全体で進める教育相談)、第14章(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割)、第15章(専門機関との連携)を踏まえ、<u>効果的な学校におけるチーム支援を構築していくために重要なことは何である</u>と考えるかについて記述してください。</p> <p>⑥第3章(学校におけるカウンセリング)、第5章(教育相談におけるアセスメント)を踏まえ、<u>第3章第3節の学校におけるカウンセリングの方法で着目している方法は何ですか</u>。また、その方法を効果的に実施するために生徒のアセスメントをどのように行うかについて記述してください。</p> | | |
| 作成方法は「ワープロ(推奨)」又は「筆記」 | | | |
| ワープロ | 用紙等：通信教育部標準フォーマット・コピー用紙等(無地) | | |
| 筆 記 | 筆記用具：ボールペン(黒)・鉛筆・シャープペンシル(HB) | | |
| | 用紙：市販のレポート原稿用紙 | | |
| 文字数等 | 設問毎に指定、横書き | | |
| 注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを的確に理解して、適当な段落で文章を構成すること。 ・テーマの内容は教科書だけでは十分に答えられないものもある。他の文献などにもあたり、作成すること。 ・教科書又は他の文献の丸写しは不可です。自分が理解した言葉で書きなさい。 ・必ず作成した原稿を読み返して、誤字・脱字等のないように留意しなさい。 | | |